

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

市内唯一の公立高校「伊達高校」。文化、スポーツさまざまな分野で活躍する生徒たち。地域の宝である若者が、この夏、全国の舞台に羽ばたいた。普段の努力と、大会の振り返りをインタビュー！



伊達高校 HP



部長
宮口由依さん
(2年生)

副部長
稲村充生さん
(2年生)

第28回全国高校新聞年間紙面審査
奨励賞受賞

伊達高校 新聞部



第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 出場

陸上競技部 女子ハンマー投げ

高野 優衣 さん (3年生)



Profile ●たかの ゆい

3年生を含めると11人在籍する陸上競技部の部長。4^キもあるハンマーを投げるため、体づくりに専念する。自己ベストは42.86^m。卒業後の進路は、看護系に進み、培った体力を生かしていきたいと話す。



Profile ●伊達高校 新聞部

「今」を伝え続ける伝統ある新聞を目標に、令和6年度は5人の部員(2年生4人、1年生1人)で活動中。ひたむきにがんばり、切れ目なく、校内新聞を発行している。主体的な活動は、部員の成長にもつながっている。

惜しくも自己ベスト更新とは
いきませんでした。全国の空
気感を知り、達成感を味わうこ
とができました。8月下旬の東

Q 全国大会の感想は？

ハンマー投げ
は難しい競技で
すが、飛距離で
自分の成長が目
に見えるから楽
しいです。



高野優衣さんインタビュー

Q ハンマー投げを始めた経緯は？

中学は吹奏楽部でした。高校
はマネージャー希望で陸上競技
部に。選手として「投てき」競
技にも出場しましたが上手くい
かず。顧問の鈴木敦先生に「ハ
ンマー投げをやってみないか」
と言われたのがきっかけでした。

Q 先輩に向けて一言

私はサボり癖があったんです
けど(笑)「私にはできる」の
マインドで、自分の限界までや
ることの大事さを知りました。
後輩にも、一日一日を大事にが
んばって欲しいです。

伊達高校新聞部インタビュー

Q 入部したきっかけは？

宮口 入学時に部活動発表会で
新聞部の存在を知り、やりたい
と思いました。

稲村 中学は運動部でしたが、
いろいろやりたくて新聞部に。

Q 新聞作成時に大変なことは？

宮口 部員数が少なくても、締

め切りを守らなければいけない
ことです。その分、新聞ができ
たときは、達成感を感じます。
稲村 見出しを考えること。先
輩の新聞を参考にしています。

Q 全国で受賞した感想は？

二人 驚きでした。奨励賞の上
に優良賞があるので、後輩たち
と、次はそこを目指したいです。

Q 先輩に向けて一言

宮口 新聞作りは本当に大変。
一人じゃできないから、みんな
と協力しながら楽しさを見出し
てくれたらと思います。

Q 二人にとって「新聞」とは？

宮口 もう部活
じゃないですね。

稲村 取材する
うちに「生活の一
部」と感じました。

